

商
事
會
社
條
例

第一款	總則
第二款	商業登錄簿
第三款	合名會社
第四款	合資會社

商事會社條例

司法省記錄文庫
保
第三百八十四號

第一四號
第六架
第一

第一款 總則
第二款 商業登錄簿
第三款 合名會社
第四款 合資會社

司法省
第八號
寄贈圖書文庫

XB
S
I

大
268

商事會社條例

一部
二部
冊部

一冊

X18400

84-1ab

T. C.

商事會社

第一款 總則

第一條 商事會社ハ共同シテ商業ヲ營ムカ爲
メニスルトキノミ之ヲ設立スルヲ得

法律ニ背戾スル目的ノ(禁止セラレタルコト
ヲ目的トスル)會社ハ初ヨリ無効トス公ケノ
秩序又ハ風教ヲ紊亂スヘキ營業ヲ爲ス會社
ハ裁判上ノ判決ヲ以テ解散セシムルコトヲ
得可シ

第二條 商業ヲ營ムトハ商ヒノ取引ヲ不斷ニ

XB400
S 4
| a

爲スコトヲ云フ

第三條 商ヒノ取引トハ直接ト間接トヲ問ハ
 ス賣買、賃貸及其他ノ賣、捌ノ方法ニ依リ産生
 物、商品及有價證券ヲ賣捌クヲ趣旨ト爲ス總
 テノ取引、殊ニ主トシテ賣、捌ヲ目的ト爲ス産
 生、物ノ諸起業及諸事業及製造ノ諸起業及諸
 事業貨物及行客運輸ノ諸起業及諸事業貨幣
 流通及信用流通ノ諸起業及諸事業保險ノ諸
 起業及諸事業トス

第四條 左ノ事項ハ商ヒノ取引ト同視スルモ

ノトス

- 一 店ヲ開キ又ハ帳場ヲ構ヘ又ハ其他ノ
 營業所ヲ設ケ又ハ廣告シテ營ム兩替
 及利足付又ハ其他ノ報酬付ノ貨幣貸
 付
- 二 新聞紙及雜誌ノ發行
- 三 商事上各種ノ代理
- 四 公ナル依頼引請營業及取次營業
- 五 諸公集場營業及遊戯場營業
- 六 請負ヒ仕事

第五條 左ノ事項ハ商ヒノ取引ト同視スヘカ

ラサルモノトス

一 戸毎ニ就キ又ハ道路ニ於テ物品又ハ

勞役ヲ販賣又ハ勸請スル事但常置ノ

營業所ヨリ派出スルモノハ此限ニ在

ラス

二 専ラ賃錢ヲ得ルノ目的ニテ物品ヲ製

作シ又ハ勞役スル事

三 他人ノ爲ニ勞働及勞役ヲ約諾スル事

但商業ノ爲メニスルモノハ此限ニ在

ラス

第六條 年齢十八歳ニ滿テタル未丁年者ハ其

父又ハ後見人ノ許諾ヲ得有夫ノ婦ハ夫ノ許

諾ヲ得テ會社ノ社員タルコトヲ得ルモノト

ス但其許諾ハ之ヲ商業登録簿ニ登記シ且公

告セサル可カラス

第七條 官吏ハ會社ノ社員タルコトヲ得ス

第八條 第六條第七條ノ規定ハ株券得有及其

現有ニ就キ適用セサル可シ

第九條 會社ノ權利義務上ノ關係ハ法律及會

社契約ニ依テ定マルモノトス

會社ハ代表人其本分ヲ以テ爲シタル不法ノ所業ニ付責任ヲ有シ義務ヲ負フ可キモノトス

第十條 會社ハ本條例中ノ規則及商ヒノ爲ニ頒布シタル法律布達及規則ハ勿論此ノ外行政上及警察上ニ於テ政府ヨリ立タル許可ニ付テノ特別約束及特別規則ニ服從セサル可カラス

第十一條 株式會社ハ其發起及設立ニ付又行

政及警察ノ區域ニ屬スル事業ヲ目的トスル合名及合資會社ハ其設立ニ付政府ノ許可ヲ受ルヲ要ス

右等ノ會社ハ其契約書ヲ主務省ニ差出シ其省ヨリ太政官ノ決裁ヲ得タル後正式ノ手續ヲ以テ許可ヲ與ヘ又ハ禁止ス可シ

其許可ヲ得ルニアラサレハ其會社ヲ設立シ又ハ商業登録簿ニ登記スルヲ得ス
株式會社ニ在テハ第五款第二節ノ規定ヲ遵守セサル可カラス

第十二條 會社ハ社名及社印ヲ設ケ且其住所

ヲ定メサル可カラス

社名ハ一地方ニ於テ同一ナル可カラス

會社既ニ存在セル營業ヲ引受クルトキハ其

舊社名ヲ襲用スルコトヲ得ス

社名ハ社店ノ前面ニ揭示ス可シ

第十三條 社印ニハ社名ヲ彫刻ス可シ且登記

ノ爲メ其印鑑一枚ヲ第二十七條ニ掲ケタル

裁判所ニ差出ス可シ社印ヲ改正又ハ改刻ス

ルトキモ亦此手續ヲ爲ス可シ

第十四條 社名及社印ハ總テ官廳ニ宛テタル

文書并ニ公報、廣告、株券、爲替手形其他總テ會

社ニ於テ權利ヲ有シ義務ヲ負フ可キ各種ノ

書類ニ用ユ可シ

第十五條 會社ハ特別ノ財産ヲ有シ又獨立シ

テ權利ヲ有シ義務ヲ負フモノトス殊ニ其名

義ヲ以テ債負債ヲ爲シ動産不動産ヲ所得シ

又訴訟ニ付テハ原告又ハ被告ト爲ルコトヲ

得可シ

會社ノ通常ノ裁判管轄ハ其住所ノ裁判所ニ

屬スルモノトス

十

第十六條 二人以上結合シ共通ノ計算ヲ以テ
一。時。ノ。商。ヒ。ノ。取。引。又。ハ。起。業。ヲ。爲。ス。ト。キ。ハ。之
カ。爲。メ。會。社。ハ。成。立。セ。ス。其。財。産。モ。亦。成。立。セ。サ
ル。可。シ。且。其。契。約。ハ。會。社。ニ。關。ス。ル。本。條。例。ノ。規
定。ニ。服。從。セ。サ。ル。モ。ノ。ト。ス。但。其。中。ノ。一。員。他。員
ノ。爲。メ。ニ。爲。シ。タル。契。約。施。行。ニ。付。テ。ノ。所。爲。又
ハ。各。員。共。ニ。躬。ヲ。爲。シ。又。ハ。共。同。代。理。者。ヲ。シ。テ
爲。サ。シ。メ。タル。所。爲。ヨ。リ。シ。テ。各。員。第。三。者。ニ。對
シ。直。接。ニ。連。帶。ノ。權。利。ヲ。有。シ。義。務。ヲ。負。フ。モ。ノ

トス

第十七條 二人以上損益共分ノ約ヲ立タルト
キハ假令別箇ニ一。時。ノ。商。ヒ。ノ。取。引。起。業。又。ハ
營。業。ヲ。爲。ス。モ。前。條。ト。同。様。連。帶。ノ。權。利。ヲ。有。シ
義。務。ヲ。負。フ。モ。ノ。ト。ス。但。此。場。合。ニ。於。テ。其。結。合
人。員。中。他。ノ。一。員。又。ハ。數。員。ノ。所。業。ノ。爲。メ。ニ。第
三。者。ヨ。リ。請。求。ヲ。受。タル。者。ハ。先。認。ノ。抗。辨。ヲ。ナ
ス。ノ。權。利。ア。ル。モ。ノ。ト。ス

第十八條 甲者一定ノ差入財産ヲ以テ乙者又
ハ乙會社ノ商ヒニ加ルニ損益ヲ共分シ其差

入財産ヲ乙者又ハ乙會社ノ所有ニ歸セシメ
 商務ニ參與セス又自己ノ氏名ヲ屋號又ハ社
 名中ニ加エサル方法ヲ以テ乙者又ハ乙會社
 ノ商ヒニ加リタルトキハ甲者ハ乙者又ハ乙
 會社ノ所業ノ爲メ第三者ニ對シ差入財産未
 納ナル場合ニ於テハ其全額マテ義務ヲ負擔
 セサル可カラス

第十九條 前條ノ契約ハ定期又ハ無定期ニテ
 取結フコトヲ得可シ無定期ノ時ハ契約ニ依
 テ定メタル預メ爲ス可キ報告ニ依リ又ハ六

ケ月前ニ報告スルトキハ何時ニテモ之ヲ解
 クコトヲ得可シ其他此契約ハ其契約シタル
 乙者ノ死亡又ハ破産又ハ乙會社ノ解散ニ依
 テ終止スルモノトス

第二十條 解約ノ時ハ甲者ノ負擔ス可キ損失
 又ハ負債ニ依テ減少シタル額ヲ除キ其差入
 財産ヲ還付セサル可カラス而シテ收入ス可
 キモ未タ領收セサル利潤ヲ以テ差入財産ニ
 増加スルコトナク又差入財産ニ減少アルト
 キト雖モ之ヲ以テ補填スルコトナキモノト

ス

第二十一條 代辦者ト爲リ又ハ商業助手ノ仕

事ヲ執ルハ商務ヲ共ニスルモノト視做ス可

カラス

第二十二條 損益配當ノ部合ヲ明約セザリシ

トキハ共同資本總額ニ對スル各自差入財産

ノ價額ノ比例ヲ以テ之ヲ算定ス可シ有分者

ニシテ損失ノ配當ヲ受サル者アル約定ハ第

三者ニ對シ無効トス

第二十三條 解約前ニ於テ契約ヲ取結タル當

務者又ハ會社ノ破産ヲ爲シタルトキ債主ハ

有分者ノ負擔ス可キ損失額ニ至ルマテ其差

金ノ内ヨリ請求スルコトヲ得可シ

第二十四條 商ヒノ取引又ハ起業又ハ契約ノ

了リタルトキハ執業者ハ有分者ニ計算ヲ示

シ且關係ノ帳簿及證書ノ展檢査閱ヲ許ス可

シ但右等ノ契約一年以上ニ涉ルトキハ毎年

前顯ノ手續ヲ爲ス可シ此規定ハ第十六條第

十七條ニ定メタル場合ニモ亦適用スルモノ

トス

第二十五條 會社ハ其業体中ニ行ハル、慣例ニ從ヒ商業帳簿ヲ設ケ總テ業務取扱上ノ事件ヲ記載スルノ義務アリトス又開業ノ時及每年初メノ三ヶ月内ニ總財産ノ目錄并ニ貸方借方ノ對照表ヲ製シ兩ナカラ之レカ爲メニ設ケタル帳簿ニ記入ス可シ
 四季又ハ每半年ニ利足又ハ益金ヲ社員ニ配當スル會社ハ每半年ニ前項ニ掲ケタル財産目錄及貸借對照表ニ係ル規定ヲ履行ス可シ
 第二十六條 商業帳簿ハ記入最終ノ後十年間

保存シ亡失損傷セサル様最モ能ク注意ヲ加フ可シ

第二款 商業登録簿

第二十七條 本條例ニ規定シタル商業登録簿ヘノ記入ハ會社ノ住所ヲ管轄スル裁判所ニテ之ヲ取扱フモノトス
 第二十八條 登記ヲ受ク可キ事件ハ當務者自己又ハ其代理人ヨリ書面ヲ以テ之ヲ届出且之レカ爲メニ要用ナル證左ヲ添加ス可シ

第二十九條 記入ノ許否及記入事件ニ付テノ

爭論ハ裁判所ノ裁決ヲ以テ終結トス以前ノ
登記ヲ改正シ又ハ取消サントスルトキノ爭
論ニ就テモ亦同シ

第三十條 裁判所ハ職權ヲ以テ記入事件ノ拔
書ヲ官報及其裁判所ノ官誌或ハ官ヨリ示定
ス可キ他ノ地方新誌ニ公告ス可シ

第三十一條 登記及公告ハ其届出タル日ヨリ
五日内ニ之ヲ爲ス可シ

第三十二條 第三十條ニ掲ケタル地方新誌ノ
種類及登記公告ノ費用ハ少ナクモ翌年分ヲ

豫メ司法卿ヨリ布達ヲ以テ之ヲ定ム可シ

第三十三條 裁判所ヨリ一回ノ督促ヲ蒙ルモ
法律ニ規定シタル登記ノ届出ヲ怠ル者ハ五
圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科シテ其届出ヲ爲
サシム可シ

第三十四條 商業登録簿ハ各人之ヲ展閱スル
ヲ得可シ都テ登記及廣告シタル事柄ハ公ケ
ニシテ裁判所ノ認メタルモノトシ其事實ヲ
知ラサルノ廉ヲ以テ義務ヲ免ル、コトヲ得
サルヲ通例トス

第三款 合名會社

第一節 會社ノ設立

第三十五條 二人以上七人以下金圓或ハ有價
物件及勞力ノ供資ニ依リ共有資本ヲ集成シ
共通計算ヲ以テ商業ヲ營ミ責任其供資ニ止
マラサルモノヲ合名會社トス

第三十六條 社名ハ全社員又ハ其一名又ハ數
名ノ人名ニ會社タルヲ表スヘキ附號ヲ加ヘ
タルモノタル可シ

第三十七條 合名會社ヲ設立スルトキハ必ス
契約書ヲ作ル可シ總員連署シタル契約書一
部ヲ各社員ニ交付ス可シ本條ノ規定ハ爾後
會社契約改正ノ時ニ當テモ亦之ヲ遵守ス可
シ

第三十八條 合名會社ヲ設立シタルトキハ設
立後十四日以内ニ此旨ヲ本店及支店ノ地ニ
於テ商業登録簿ニ登記シ且之ヲ廣告ス可シ
之ヲ爲サ、ル者ハ第三十三條ノ罰金ニ處セ
ラル可シ

第三十九條 登記及廣告中ニ載スヘキ件々左

ノ如シ

一 會社ノ種類、目的、社名及住所

二 各社員ノ氏名住所

三 設立ノ年月日

四 存立期限ヲ約定シタルトキハ其期

限

五 契約ニ依リ商務ノ專權ヲ委任セラ

レタル社員アルトキハ其社員ノ氏

名

第四十條 前條ニ記載シタル一件又ハ數件ニ

於テ爾後變更ヲ生シ又ハ合議ヲ以テ變更シ

タルトキハ亦之ヲ七日以内ニ商業登録簿ニ

登記シ且廣告ス可シ之ヲ爲サ、ル者ハ第三

十三條ノ罰金ニ處セララル可シ

第四十一條 登記及廣告前ニ於テハ會社開業

スルヲ得ス違背スルトキハ裁判上ノ處分ヲ

以テ其營業ヲ差止メ且其會社ニ一日毎ニ五

圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ

第四十二條 會社登記ノ日ヨリ六ヶ月間ニ開

業セサルトキハ其登記及廣告ハ無効トス

第二節 會社契約ノ變更

第四十三條 會社契約ハ總員同意ノ決議ニ非

ラサレハ變更スルヲ得ス其決議ヲ得サルト

キハ從前ノ契約ニ循フ可シ

第四十四條 社員ハ其供資ヲ契約ニ定メタル

高ノ外ニ増加シ又ハ損失ニ由テ減少シタル

供資ノ高ヲ補充スルノ義務ヲキモノトス

第四十五條 社員ハ自餘ノ社員總數ノ承諾ヲ

得ルニ非ラサレハ自己ノ供資又ハ會社資産

中ノ持分ヲ減少スルコトヲ得ス

第四十六條 社員ハ前條同様ノ承諾ヲ得ルニ

非ラサレハ他人ヲ會社ニ加入セシメ又ハ自

己ノ地位ニ替ユルコトヲ得ス然レトモ亡社

員ノ相續人又ハ權利承繼者ハ契約ニ反對ノ

明條アルニ非サレハ本員ノ地位ヲ繼續スル

コトヲ得可シ

第四十七條 會社資産中ノ持分ヲ他人ニ讓與

又ハ轉移スルコトハ會社ニ對シテモ又ハ第

三者ニ對シテモ其効ナキモノトス

第四十八條 社員若シ他人間接有分者ヲ自己

ノ持分ニ加入セシムルトキハ本條例ノ總則

(第十六條以下)ニ從テ其關係ヲ判定ス可シ

第四十九條 會社契約中ノ箇條ニシテ會社實

行セサリシモノハ後來社員ニ對シテモ又ハ

第三者ニ對シテモ之ヲ有効トスルコトヲ得

ス

第三節 社員相互ノ權利義務

第五十條 社員相互ノ權利義務ハ法律及會社

契約ニ依テ定マルモノトス

第五十一條 會社契約ニ規定セサル事項或ハ

會社契約規定施行ニ關スル事項ハ社員ノ多

數ニ依テ之ヲ決ス可シ

第五十二條 會社ノ目的ニ異ナルカ或ハ其目

的ヲ踰ユル諸般ノ業務及事件ニ就テハ總社

員ノ同意ヲ要ス

第五十三條 會社ノ業務施行及會社ノ利益ヲ

保衛スルコトニ就テハ會社契約ニ別段ノ規

定ナキ限りハ各社員同等ノ權利ヲ有シ義務

ヲ負フモノトス○會社契約ニ依リ若干ノ業

務又ハ諸般ノ業務取扱ヲ一社員又ハ數社員

ニ專ラ委任シタルトキハ第五十一條ヲ又此
ニ適用ス可シ○供資ノ額ニ從テ社員ノ發言
權利ニ等差ヲ立ルコトヲ許サス

第五十四條 業務取扱ニ與ラサル社員ハ何時
ニテモ業務實況ノ詳報及會社帳簿并ニ書類
ノ檢閲ヲ要求スルコトヲ得可シ

第五十五條 代辨者ヲ委任シ及解任スルノ權
利ハ業務擔當ノ各社員之ヲ有スルモノトス
第五十六條 各社員ハ會社ニ對シテ誠實信義
ヲ盡シ正當ナル商人自己ノ業務ニ於ケルト

齊シキ勉勵注意ヲナスノ義務アリ其義務ヲ
怠リ會社ニ生セシメタル損害ハ之ヲ補償セ
サル可カラス

第五十七條 社員ノ供資ハ會社ノ所有トシ契
約ニ依テ定メタル價額ヲ以テ會社ノ財産目
録中ニ記入ス可シ

第五十八條 社員物件ノ入額所得權利又ハ使
用權利ノミヲ供資トシテ差入ル、トキハ其
入額所得權利又ハ使用權利ノミ會社資産ニ
移轉スルモノトス

第五十九條 前條ノ物件供資ノ義務ヲ盡サン
 カ爲メ會社ニ引渡シタル後消滅スルトキハ
 其所有權利ノ損失ハ所有主ニ歸シ其入額所
 得權利又ハ使用權利ノ損失ハ會社ニ歸スル
 モノトス

第六十條 社員ノ別離ト共ニ終止スル目的ヲ
 以テ物件ノ使用權利ヲ會社ニ引渡シタルト
 キハ其所有權及使用權ノ損失ハ社員ニ歸ス
 ルモノトス

第六十一條 自己ノ勤勞ヲ以テ供資ト爲シタ
 ル社員會社契約存立中ニ死亡スルカ或ハ其
 他之ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ
 其供資ノ義務及ヒ社員タルコトハ之レカ爲
 メニ絶ユルモノトス

第六十二條 社員契約上ノ供資ヲ納メザルト
 キハ其怠納者ヲ除名スルト百分ノ七ノ利足
 ヲ出サシムルトハ會社ノ撰擇ニ在ルモノト
 ス且會社ハ此兩様ノ内何レノ場合ニ在テモ
 損害ノ辨償ヲ要求スルコトヲ得可シ

第六十三條 社員契約上ノ供資ヲ納ムルコト

能ハサルニ至リタルトキ總社員ノ承諾ヲ得
テ他ノ供資ヲ代納スルニアラサレハ社員タ
ルコトハ絶ユルモノトス

第六十四條 社員ヨリ會社ニ貸付ケタル金額
及契約上ノ供資額ヲ超エテ會社ノ爲メニ支
出シタル費用ニ就キ該社員ハ其辨償ノ外百
分ノ七ノ利足ヲ要求スルコトヲ得可シ又社
員業務取扱ノ爲メ直接ニ受タル損失ニ就テ
モ亦其辨償ヲ要求スルコトヲ得ルモノトス

第六十五條 社員負擔ノ供資額ヲ超エテ會社
ニ供シタル勤勞ニ付テハ相當ノ報酬ヲ要求
スルコトヲ得可シ○業務取扱上ノ執勞ニ就
テハ會社契約ニ明條アルトキニ限り社員其
報酬ヲ要求スルノ權利ヲ有スルモノトス

第六十六條 社員會社ノ爲メニ領收シタル金
圓ヲ相當ノ時限ニ會社ニ交付セス或ハ社金
ヲ自己ノ用ニ供シタルトキハ百分ノ七ノ利
足ヲ會社ニ納付シ且如何ナル損害ヲモ辨償
スルノ義務アルモノトス

第六十七條 社員契約ニ依リ會社ノ承諾ヲ得

ルニアラスシテ自己ノ計算又ハ第三者營業ノ計算ヲ以テ會社ノ商業部内ニ屬スル取引ヲ爲シ或ハ此等ノ取引ニ參與スルトキハ該社員ヲ除名スルトモ又ハ其取引ヲ會社ノ計算ニ移ストモ會社ノ撰擇ニ在ルモノトス且會社ハ此兩様ノ内何レノ場合ニ在テモ損害ノ辨償ヲ要求スルコトヲ得可シ

第六十八條 各社員會社ノ損益ヲ共分スル割合ハ契約ニ於テ定メサルトキハ供資ノ價額ニ應ス可シ

勞力ノ價額ヲ契約中ニ定メサルトキ爭論ノ起リタル場合ニ於テハ裁判上ノ判決ヲ以テ之ヲ確定ス可シ

第六十九條 一名又ハ數名ノ社員他ノ社員ヲ除外シ自己ノミ利益ヲ受ルノ約定ハ無効トス之ニ反シ特殊ノ理由ニ依リ一二ノ社員損失ヲ免カル、ノ約定ハ其効ヲ有スルモノトス

第七十條 契約ニ定メタル供資ノ價額其差入ノ時ノ實價ニ超過スルコト甚シキトキハ何

時ニテモ其價額ヲ不當トシテ異議スルコト
ヲ得可シ

社員會社ニ賣渡シ又ハ他ノ報酬ヲ受テ讓渡
シ又ハ賣渡若クハ讓渡ニ於テ利益ヲ受タル
物件勞力ニ就テモ亦同一ノ異議ヲ爲スコト
ヲ得可シ

第七十一條 社員業務ニ與ラサル者ニシテ業
務ヲ爲シ或ハ會社ニ對シテ詐偽ヲ行ヒ或ハ
會社ニ對シ甚シク主要ノ義務ヲ欠タルトキ
ハ第五十六條ニ制定シタル責任ノ外尙該社

員ヲ除名スルコトヲ得可シ

七十二條 社員會社契約又ハ本條例ノ規定
ニ據リ會社ノ爲メニ執行シタル各種ノ所業
及取引ハ各社員ニ於テ其持分ノ割合ニ應シ
之ヲ承認スルノ義務アルモノトス

第四節 社員ノ第三者ニ對スル權
利義務

第七十三條 社員ノ所業及取引ニ依リテ會社
ニ得タル第三者ニ對スル權利ハ業務ニ參與
セサルコトヲ登記及廣告セサル各社員裁判

上ト裁判外トヲ論セス其範圍ヲ盡シテ之ヲ主張シ又其權利ヲ處分スルコトヲ得可シ

第七十四條 前條ニ等シク第三者ニ對スル會社ノ義務ハ第三者ヨリ代理權利アル何レノ社員ニ對シテモ裁判上ト裁判外トヲ論セス其範圍ヲ盡シテ之ヲ履行セシムルコトヲ得可シ

第七十五條 會社ハ公ニ業務擔當ヲ除カレサル社員ノ會社ノ爲メニ明言シテ爲シ又ハ事情會社ノ爲メニ爲シタルモノト看認ム可キ

總テノ所業及取引ヨリ直接ニ權利ヲ有シ義務ヲ負フモノトス

第七十六條 會社契約又ハ其他ノ約定ヲ以テ業務擔當社員ノ代理權利ノ範圍ニ制限ヲ立ルモ其制限ハ第三者ニ對シテ無効トス

第七十七條 會社ノ負債ニ對シテハ先ツ會社ノ財産之ニ當リ次テ社員各箇ノ全財産ヲ以テ負債ノ全額ニ當ルモノトス

第七十八條 社員ニアラスンテ其氏名ヲ社名ニ表出シ又ハ業務ニ參與スル者及供資ノ義

務ヲ一定セスシテ社員タル者ノ權利ヲ有シ
義務ヲ負フ者ハ其氏名ヲ登記廣告セサルモ
前條ノ責任ヲ負フ可キモノトス

第七十九條 商業助手又ハ代辨者ニシテ給料
ノ全部又ハ一部ヲ一定或ハ不定ノ利益配當
ノ部合ニ依テ定メタル者ハ前條ノ者ト同視
ス可カラス

第八十條 新ニ加入スル社員ハ社員ノ間又ハ
會社ニ對スル債主トノ契約ニ因テ他ニ取極
アルニアラサレハ其加入ノ時期ヨリ以後ニ

生シタル會社義務ニ限リ責任ヲ負フモノト
ス○單ニ舊來ノ負債ヲ認知シ又ハ其負債ニ
依テ得タル會社ノ物件ヲ使用スルノミヲ以
テ右契約上ノ取極ト同視ス可カラス

第八十一條 新ニ加入シタル社員以前ノ取引
ヨリ生スル利益ノ配當ヲ受ルトキハ其取引
ノ爲メ自ラ第三者ニ對シ責任ヲ負ハサル可
カラス

第八十二條 會社財産ハ其分配前ニ於テハ會
社義務履行ノ爲メニアラサレハ要求ニ當ル

コトヲ得ス但其差入前之ニ對シ既ニ第三者ノ爲メニ權利ノ存立スルトキハ此限ニ在ラス

第八十三條 社員自己ノ債主ニ對シ會社財産中ノ持分ヲ以テ其義務ニ充ツルコトヲ得ルハ會社ノ承諾ヲ得スシテ引出スコトヲ得ル部分ニ限ル可シ

第八十四條 會社ニ對スル負債ト社員ニ對スル要求ト又ハ會社ニ對スル要求ト社員ニ對スル負債トノ抵填ハ會社財産分配前ニ在テ

ハ之ヲ爲スコトヲ許サス

第八十五條 任意ニ爲シタル社員持分ノ減少又ハ引取ニ依テ會社ノ債主會社財産ヨリノ辨償ヲ減少セラレ又ハ支障セラレタルトキハ該債主ハ之ヲ知り得タル後一年以内ニ異議ヲ申立ルコトヲ得可シ但異議ノ効果ハ其減少又ハ引取ノ嘗テアラサリシモノト見做スニアリトス

第五節 社員ノ別離

第八十六條 社員除名セラル、ノ外別離スル

場合ハ左ノ如シ

- 一 任意ノ退去[會社契約ノ無定期又ハ終身ナル時又ハ契約ニ定期アルニ於テハ會社ノ承諾ヲ得タル時
 - 二 死亡[嗣員トナル權利承繼者ナキ時
 - 三 獨立權ノ消失[別段ノ契約ナキ時
 - 四 破産
 - 五 商業ヲ爲ス能力ヲ失フタル事(第七條)
- 第八十七條 社員別離スル毎ニ其別離ノ事ト其理由トヲ七日内ニ商業登録簿ニ登記シ且

之ヲ廣告ス可シ之ヲ爲サ、ル者ハ第三十三條ノ罰金ニ處セラル可シ

第八十八條 任意ノ退去(第八十六條)ハ別段ノ約定アルニアラサレハ六ヶ月前ニ預告シタル後事務年度ノ末ニ限ル可シ但至急退去ス可キ重要ノ事由アルトキハ此限ニ在ラス

第八十九條 社員ノ別離ノ爲メニ會社自ラ解散ニ至ルモノニ非ス

第九十條 別離シタル社員ハ別離前ニ屬スル取引ニ就テ其持分ニ對シ會社トノ關係アル

ノ外別離ノ時ヨリ會社ノ取引及ヒ權利義務
ニ加ハラサルモノトス

第九十一條 別離シタル社員ヘノ支拂ノ爲メ
特ニ精算書ヲ製シ本員ノ加リタル取引ノ結
了シタルモノ丈ケバ其精算書ニ據リ會社財
産中ノ持分ヲ其別離ノ時ノ額ヲ以テ遲延ナ
ク其社員又ハ權利承繼者ニ拂渡ス可シ

第九十二條 會社財産中ノ持分ヲ拂渡スハ其
持分ニ相當スル會社義務ヲ除キタル餘分ニ
限ル可シ

第九十三條 會社財産ノ持分高ノ現價ハ別段
ノ約定アルニアラサレハ供資ノ何種類タリ
シニ拘ハラス必ス貨幣ニテ之ヲ拂渡ス可シ
社員ノ勤勞ハ其別離ト共ニ終止シ償却ヲ要
求スルコトヲ得ス又社員ノ別離ト共ニ終止
スル物件ノ使用權利(第六十條)ニ付テモ亦同
シ但會社ノ失錯ニ依テ物件ノ損傷シタルト
キハ此限ニアラス

第九十四條 別離シタル社員會社ノ義務ニ對
スル責任(第七十七條)ノ期滿免除ハ別離後一

ケ年トス

第六節 會社ノ解散

第九十五條 會社ハ左ノ事項ニ據テ解散スル

モノトス

- 一 會社存立期限ノ終リ
- 二 會社契約ニ定メタル解散事由ノ到來
- 三 總社員四分三以上同意ノ決定
- 四 會社ノ破産
- 五 裁判上ノ處分

第九十六條 會社仕拂ヲ停止シタル時ハ破産

シタルモノトス

第九十七條 會社反法ノ事業又ハ公ケノ秩序

及ヒ風教ヲ紊亂ス可キ事業ヲ營ムトキ又ハ

會社ノ目的ヲ達スルコト能ハス若クハ會社

ノ地位ヲ維持スル能ハサルニ至リ或社員ヲ

除名スルモ尙之ヲ排除シ得サル事由ヲ以テ

社員一名又ハ數名ヨリ解散ヲ發議スルトキ

ハ裁判上ノ處分ヲ以テ會社ヲ解散セシムル

コトヲ得可シ

第九十八條 第九十五條中第一項ヨリ第三項

ニ記載シタル場合ニ於テハ協議ノ上總社員
 又ハ其一部社員ニ於テ該會社ヲ保續スルコ
 トヲ得可シ然ルトキハ其保續ニ加ハラサル
 社員ハ退社々員(自第八十六條至第九十四條)
 トシテ之ヲ取扱フ可シ

第九十九條 會社ノ解散ハ其年月日事由(第九
 十五條)及撰任シタル清算人(第一百條)ノ氏名
 ナ付シテ之ヲ七日以内ニ商業登録簿ニ登記
 シ且公告スヘシ之ヲ爲サ、ル者ハ第三十三
 條ノ罰金ニ處セラレ可シ

第一百條 會社ハ解散ニ依テ終ルモノトス會社
 ノ營業ハ一切之ト共ニ停止シ會社ノ財産ハ
 破産ノ場合ノ外持分ニ應シテ各社員ニ分配
 ス可シ

第一百一條 財産分配ノ目的ヲ以テ社員ハ其多
 數決ニ依リ一名又ハ數名ノ清算人ヲ撰定ス
 可シ清算人ハ殘務ヲ結了シ會社ノ義務ヲ履
 行シ未納ノ貸方ヲ收納シ現存ノ財産ニ屬ス
 ル物件ヲ賣却スルノ任アルモノトス清算人
 此目的ヲ超ヘテ營業ヲ保續シ又ハ新ニ取引

ヲ爲スコトヲ許サス

第二百二條 清算人ニ屬スル擔任ハ社員之ヲ制限スルコトヲ得ス但重要ナル理由ニ依リ社員ノ申立タルトキハ裁判上ノ處分ヲ以テ其任ヲ解クコトヲ得可シ

第二百三條 清算人ハ其擔任ノ事務ヲ結了シタルトキハ直チニ又事情ニ依リテハ年々計算書ヲ社員ニ呈示シ且支障ナキ現在ノ資産ヲ遲延ナク社員ニ分配ス可シ

第二百四條 社員ニ分配スルモノハ會社ノ全負

債ヲ清完シタル後殘存セル財産ニ限ル可シ

第二百五條 各社員ハ他ノ約定アルニアラサレハ其持分ノ拂渡ヲ之ニ相當スル金額ニテ要求ス可シ

第二百六條 解散シタル會社ノ商業帳簿及其他ノ書類ハ法律上ノ規定(第二十六條)ニ從ヒ會社ノ決議ヲ以テ之ヲ取扱フ可シ

第二百七條 分配又ハ之ニ牽連スル事件ニ就テ社員相互ノ間又ハ社員ト清算人トノ間ニ爭論ノ起ルトキハ裁判上ノ判決ヲ以テ之ヲ處

理ス可シ

第百八條 會社ノ負債ニ對スル社員自己ノ責任ノ期滿免除ハ其負債ニ對シ五ケ年ヨリ短キ期滿免除期限ノ定メナキトキニ限り會社解散後五ケ年トス但未ダ分配セサル會社財産ノ現在スルモノニ對シ債主ヨリ要求ヲナシタルトキハ此限ニ在ラス

第四款 合資會社

第百九條 社員ノ責任其一名又ハ數名ニ對シ別段ノ契約アルニアラサレハ供資トナシタル金圓又ハ有價物件ノ額ニ限ル會社ヲ合資會社トス

合資會社ハ社員十五名ヲ超ルコトヲ得ス

第百十條 合名會社ノ條則本款ニ於テ別ニ規定ナキモノハ合資會社ニモ亦之ヲ適用ス可シ

第百十一條 合資會社ハ登記及ヒ公告中第三十九條ニ掲グルモノ、外尙ホ左ノ件々ヲ列記ス可シ

一 會社資本ノ總額

- 二 金額ニ引直シタル各社員ノ供資高
- 三 責任無限社員アルトキハ其氏名住所
- 四 業務擔當社員又ハ取締役ノ責任ノ有
限若クハ無限(第二百一十一條)

第一百十二條 合資會社ノ社名ニハ責任有限社員ノ氏名ヲ用フルコトヲ得ス且該社名ニハ必ス合資會社ノ語ヲ加フ可シ
氏名ヲ社名ニ加ヘタルトキハ其社員ハ之レカ爲メ會社ノ負債ニ對シ自己ノ財産ヲ以テ其責ヲ負ハサル可カラス

第一百十三條 合資會社ノ社員ハ一己ノ計算又ハ他人ト共同ニテ會社營業ト同種類又ハ異種類ノ商業取引起業又ハ營業ヲ爲スコトヲ得可シ

第一百十四條 契約ニ於テ他ノ取極アルニアラサレハ各社員ハ同等ニ會社ヲ代表スルノ權利ヲ有シ義務ヲ負フモノトス

第一百十五條 合資會社設立ノ時社員三名ヲ超ルトキハ直ニ會社契約ヲ以テ社員中ヨリ一名又ハ數名ノ取締役ヲ撰定ス可シ設立後三

名以上ニ至リタルトキハ會社ノ決議ヲ以テ
之ヲ爲ス可シ

取締役數名ヲ撰定シタルトキハ取締役各自
ニテ會社ノ爲メニ業務ヲ取扱フコトヲ得ル
歟又ハ其中數名又ハ總員共同ニアラサレハ
之ヲ取扱フコトヲ得サル歟之ト共ニ取極
ム可シ

第一百十六條 業務擔當者又ハ取締役ハ裁判上
ト裁判外トノ事件タルニ拘ハラズ總テ會社
ヲ代表スルノ權利ヲ專有スル者トス但會社

契約中ノ規定及ヒ會社ノ決議ヲ遵守セサル
可カラズ

第一百十七條 第一百十五條第一百十六條ニ記載シ
タル業務擔當者又ハ取締役ノ代表權利ノ制
限ハ善意ヲ以テ之レト取引ヲ爲シタル第三
者ニ對シテハ無効トス

第一百十八條 社員ハ會社ノ承諾ヲ以テノミ持
分ヲ他人ニ讓與スルコトヲ得可シ讓與シタ
ルトキハ讓與者ハ別離社員ト視做シ讓受人
ハ前社員ノ會社ニ係ル諸般ノ權利義務ヲ繼

承スル者トス

第百十九條 業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ニ撰ハレタル社員ノ所業ニ因テノミ會社ハ權利ヲ有シ義務ヲ負フモノトス

第百二十條 會社ノ負債ニ對シテハ會社財産及ヒ責任無限社員自己ノ全財産ヲ以テ之ニ充ツ可シ但社員未納ノ供資アルトキハ其供資亦之ニ充ツ可キモノトス

第百二十一條 業務擔當社員又ハ取締役其業務取扱中ニ生シタル會社ノ負債ニシテ會社

ノ財産ヲ以テ債主ヘ辨償シ得サル分ハ其總員若クハ其中幾員各箇ノ全財産ヲ以テ之ニ充ツ可シトノコトヲ會社契約又ハ會社ノ決議ニ依テ取極ムルコトヲ得可シ

第百二十二條 前條ニ記載シタル無限責任ノ期滿免除ハ業務擔當者又ハ取締役ノ解任後一ケ年トス其解任ト共ニ退去スルト否トヲ問ハス

第百二十三條 各社員ハ業務ヲ擔當セサル者ト雖モ何時ニテモ業務ノ實況及効果ヲ質シ

業務ヲ監シ意見ヲ陳シ并ニ商業帳簿及其他
會社ノ書類ヲ檢閱スルノ權アルモノトス

第二百二十四條 業務擔當社員又ハ取締役ハ少
クトモ年々一回總集會ヲ開ク可シ其他社員
四分ノ一ノ申立アルトキハ總社員ヲ招集ス
可シ凡集會ヲ開クニハ其目的ト事項トヲ示
サ、ル可カラス

第二百二十五條 各年會ハ事務年度ノ終リタル
後直ニ之ヲ開キ前年度ノ業務及ヒ其効果ノ
詳明ナル記錄并ニ整備シタル貸借對照表ヲ

社員ニ示シテ檢査認定ヲ請フ可シ其記錄及
對照表ハ運クトモ集會ノ十四日前ニ各社員
ニ送付ス可シ其認定ス可キト否トハ出席社
員ノ多數決ニ依ル可シ

第二百二十六條 會社前條記載外ノ事項ニ付キ
決議ヲ要スルトキハ其事項ヲ集會ノ當日ヨ
リ少クトモ十四日以前ニ各社員ニ通知ス可
シ其多數決ハ總社員過半数ノ出席ニ於テ爲
シタルモノニシテ其後十四日ヲ過キ再ヒ集
會ヲ開キ其出席人員ノ多數ニ依リ認定セラ

レタルモノニ限り各社員ニ對シ効力アルモノトス

第二百二十七條 供資ニ對スル利足又ハ益金ハ損失ニ依テ供資ニ減額アル間ハ之ヲ計算スルコトヲ得ス又何レノ社員ヘモ拂渡スコトアル可カラス此規定ト抵觸スル會社契約ノ條款又ハ決議ハ無効トス然レトモ既ニ正當ニ拂渡シタル利足又ハ益金ハ爾後ノ損失ヲ補フ爲メニ其返還ヲ要求スルコトヲ得ス

第二百二十八條 社員三名ヲ超ユル會社ニ在テハ社員四分三ノ多數ニ依テ會社契約ノ變更ヲ決議スルコトヲ得可シ此ノ場合ニ於テハ不同意ノ社員ハ假令反對ノ契約條款アルモ直ニ退去スルノ權アルモノトス

